

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ

### 「北陸新幹線（長野経由）の延伸に向けた北信地域の観光振興について」

意見交換における検討の視点

- ① 「己の良さを知り、どう伝えるか」
- ② 「ヒト・モノ・コト なにをどうつなぐ（連携する）？」

日 時 平成 26 年 1 月 22 日（水）午後 6 時から午後 7 時 30 分まで

場 所 長野県飯山庁舎（飯山市大字静間 1 3 4 0 - 1）

参加者 知事、職員及び地域の観光業関係者 28 名

目 次

1	知事 冒頭あいさつ .....	1
2	意見交換 .....	2
3	知事 感想と結びのあいさつ .....	22

## 1 知事 冒頭あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんばんは。今日は雪の中というか、この地域は雪があって当たり前なのだと思いますけれども、県政タウンミーティングにお集まりをいただきまして、大変ありがとうございます。県政タウンミーティングも今回で 36 回目ということのようではありますが、なるべく県民の皆さんの声を直接お伺いする中で県政運営を進めていこうということで、タウンミーティングであったり、ティーミーティングであったり、ランチミーティングであったりということで進めさせてきていただいております。

今日は、「北陸新幹線(長野経由)の延伸に向けた北信地域の観光振興について」ということで、皆さんと同じ方向を向いて語り合いたいと思ってお伺いをしました。

もう来年の春に開業が迫っているわけで、皆様方もいろいろな思いを持ちながら、いろいろな取組を進めていらっしゃると思います。

この間、国の関係の方々にも、今まで散々「金沢までの延伸を早期に実現してください。」と、県としてお願いをしてきたわけですが、来年金沢まで延伸したらあとはこの新幹線の延伸をどう生かすか、どう効果を上げられるかということは、今度は、国に対する我々の責任でしっかりやっていかなければいけないという話をさせていただきました。

我々というのは、県だけではなくて、市町村であったり、今日お集まりの皆さんであったり、今までも皆さんと一緒に連携をしてきたわけですが、ここからは正に我々が本当に同じ方向を向いて何を具体化していくか、何を実現していかねばいけないかということが問われる場面になってくるわけがあります。

この飯山北信地域、あるいは「信越自然郷」の地域は、私は日本の中でも特色ある地域だと思います。世界の視点で考えても、例えば日本の誇るべき原風景も色濃く残っていますし、ソチオリンピックを間近に控えていますけれども、スノーリゾートという観点から考えても、大変素晴らしい資源をいっぱい抱えた地域でもあります。そういうことをどう生かして地域の元気につなげていくかということを、是非今日は皆さんと一緒に率直な意見交換をさせていただく中で、同じ方向を向いていく目標を設定できればいいなと思っております。

皆様方のポジティブなご意見をどんどん出していただくと同時に、これを機会にお互いのつながり、そして県も皆さんと一緒に地域の中にどっぷり入って、地域の振興に対してしっかり取り組んでいきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

今度、4月以降、県も少し組織を変えていこうと思っていますが、今まで地域振興の部門がいわゆる市町村課というところでやっていたけれども、それとは別に地域の皆さんと一緒に地域振興を考えるセクションをつくっていこうということを、今考えています。

そういう意味で、我々も地域振興の観点、あるいは交通政策の観点、様々な観点で、この新幹線の延伸をどう地域に生かすかということで、積極的な取組をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

少し長くなりましたけれども、有意義な会にしていきたいと思っておりますのでご協力をよろしく願います。

今日はありがとうございます。

## 2 意見交換

(以下、進行上の発言は一部省略します。)

### 【広報県民課長 土屋智則】

それでは、早速意見交換に入ってまいりたいと思います。

本日は、意見交換の進行役といたしまして内山二郎様にお越しをいただいております。内山様はフリージャーナリストとして、人権問題や障がい者問題、さらには地域づくりやコミュニケーションワークショップなど、幅広い分野でご活躍でございます。

また、長野県長寿社会開発センター理事長としてお年寄りの生きがいづくりや健康づくり、社会参加、そういったことにつきましてもご尽力をいただいております。本日はご多忙の中、お引き受けいただきまして大変ありがとうございます。

それでは内山様、この後の進行をよろしく願いいたします。

### 【内山二郎氏】

皆さん、こんばんは。ただ今ご紹介いただきました内山二郎と申します。

今、知事からタウンミーティングのお話がありましたけれども、知事とこういう形で、県民とそれから部局の担当が膝をつき合わせて本音で語り合うという、こういうミーティングのファシリテーターをさせていただくのはこれで3回目です。

私は、いつも申し上げるのですけれども、いわゆる四角い会議ではなくて、丸い会議で、そしてそこで本音でみんなが意見を交わし合い、そしてそれを共有し、一つの方向性を見いだすというのがタウンミーティングの一つのあり方かなと思っております。今日もそんな方法でやらせていただきたいなと思います。

それにしても、今日ここにお集まりの皆さん。今、知事からもお話ありましたけれども、いろいろな形でこれから連携をしていくということが大事になってくると思います。今日は、本音で語り合い、一つの方向性が見いだせばいいと思います。

テーマは、「北陸新幹線（長野経由）の延伸に向けた北信地域の観光振興について」ということです。皆さんのお手元に付箋紙が配られています。付箋紙を使っ

て、二つの視点から、テーマを考えていただきたいと思います。

第1の視点は、「己の良さを知り、どう伝えるか」、なんか固いですね。こちら、さきほどありましたけれども、世界に冠たるこの北信地域のこの財産、自然、それから人、それからいろいろな施設、そういうふうなものの良さを知り、それをどう発信していくのかということです。

第2の視点は、「ヒト・モノ・コト なにをどうつなぐ（連携する）?」。いろいろな活動が起きていますけれども、そういうふうなものを単独の主体だけでやるのではなくて、つながって連携しながら、それをどう本当に生かしていくのかということです。

それで付箋紙を使っていただいて、皆さんも話し出せば限りなくいろいろなご意見があると思いますけれども、今日はこれだけの人数で議論を深めたいと思いますので、1枚の紙に特に自分が思うこと、これだけは絶対はずせないと思うこと、一つの視点に対して1枚ずつ書いていただくということです。

付箋紙には視点の番号、所属とお名前を書いていただきたい。そして、1枚の中に何項目も入れない。1枚に1項目だけです。後でジャンル分けをしなくてはいけませんので。いろいろと書いてしまうと、これを整理することが不可能になりますので、1枚に1項目、特に自分が大事だと思うことを書くという、そういうルールでいきたいと思います。

そして、皆さんから出ましたら担当が速やかにグルーピングして、ジャンル分けをします。それを元にしながら1枚ずつ読み上げながら、それぞれからコメントをいただきます。それでコメントを元に議論を深めていくということで、二つの視点について、適宜知事からのご意見もいただくという手法でいきたいと思います。よろしいですかね。

(付箋紙への記入と、整理作業を行いながら、意見交換を開始)

【長野県知事 阿部守一】

すみません。1番の己の良さについて、知ると伝える。2つ入っているのですよね。どっちにウエイトを置くかでだいぶ違うような気がするのですけど。

どう伝えるかというのは伝える手法みたいなもので、良さを知ってというのは、何が価値があるのかということです。あまり私がいろいろ言っただけではいけない。混乱しますよね。

【内山二郎氏】

とにかく多様な意見が出てくる。What（何が価値があるのか）であるかもしれないし、How（どう伝えるか）であるかもしれないということで、少し曖昧ですみませんけれども、こういうことでよろしいでしょうか。だから、自分の視点の置き方によって、いろいろ出てくるかもしれないけれども、それはジャンル分けの中で整理をするということでいきたいと思います。

この方法では、自分の意見と全然違う意見が出てきてもまずは否定しないとい

うのが大原則です。まずはいろいろな意見を「あ、そういう意見もあったのか。俺とは違うけれども。」というふうに受け止め合うというのが大原則。

それから、「こんなバカバカしいのに付き合えるか。」と、横を向いてしまうのではなくて、全員がとにかく参加して自分の意見をそこで述べる。表明する。そして、新たな気付きと、みんなで話しているうちに方向性が何となく見えてくる。みんなで方向性を共有する。そういうふうなことがうまく出てくればいいなと思います。

**【参加者】**

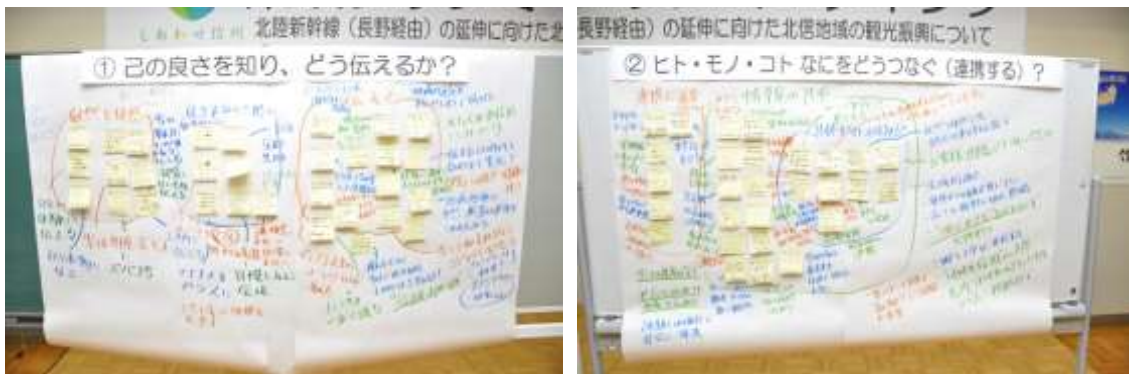
あまりにも漠然として。

**【内山二郎氏】**

漠然としているからいろいろな意見が出てくる。

あまり、きちっと「これについて。」という、それについてぐっと入っていきまされども、とりあえず今は、いろいろな自分の視点から「こんなふうな捉え方をしたんだ。それについて自分はこう考える。」というように、全然違う視点からいろいろな意見が出てきてもいいことにしましょう。

(参加者は付箋紙に意見を記入し、職員が回収して整理)



(参考写真：参加者の書いた付箋を開催中に整理したもの)

**【内山二郎氏】**

皆さんからいろいろなご意見が出ました。

「自然を体感」、「良さを見つけて形にする。」、「伝える。どう発信するか。」というようなグループが浮かび上がってきたようです。

まず、「自然を体感」ということについて聞いていきましょう。

(以下、○は参加者が付箋に記した意見、続く記述は、記入した方の解説です。)

**【参加者】**

○「本物（温泉、雪、自然等々）の良さを正しく伝える。」というご意見について

最終的には観光地って、本物をいかに提供できるかということだと思っただけです。その中で、この地域に一番皆さん求めるのって自然だったり、雪だったりという、本物を求めてということだと思います。それをやはりいかに正しく伝えるか。なかなか情報って正しく伝わらない部分がありますので、間違っただけ情報が一人歩きということもあります。それにはやはりこの地域に住んでいる方が自分の足で、口で伝えるしか、仕方ないと思いますのでそのあたりの努力を。

**【参加者】**

○「中野の新しい魅力として一本木公園のバラがあります。バラまつりに8万〜10万の人がお見えになる。この魅力を広めたい。」というご意見について  
一本木公園って、中野市ですね、新しい魅力として一本木公園がございまして。30年前からバラを植えて、今は、たった20日間だけで8万から10万人が来るお祭りとなりました。この新しい魅力を中野市の魅力として伝えていきたいというのがございます。

ただ、伝え方となるとやはりバラというのは目で見たり、香りを嗅いだり、実際にものを見るので、どういう伝え方か分からないのですが、今のところマスコミさんをお願いして伝えているというのが、今自分たちがやっていることです。

**【参加者】**

○「自然の豊かさ（雪、森、食、アクティビティなど）をイメージしやすい形にして求めている方に伝える。」というご意見について  
やはり私も自然、雪が一番この特長かなと思うのです。  
それをイメージしやすい形というのは、例えば新幹線ができるのですが、飯山の駅を降りたら、かまくらが冬中、駅前にあるとかですね。そういう形で、こんな豪雪地帯に人が住んでいる所で、3メートルも4メートルも降るところってというのはなかなかないので、それが新幹線に乗って東京から1時間半、2時間弱で来ることができますから、「駅を降りたら、かまくらがあるよ」みたいな形でインパクトを持って伝えたらどうかなと思います。

**【参加者】**

○「田園風景、きれいな水の流れ、おいしいおそば、パウダースノー、ホームページ、ロコミ、パンフレットなど」となっています。  
要するに都会にはないものをまずアピールするという事。  
やはり都会に田園風景はないし、おいしいきれいな水もないし、そしてまたその地域に昔から伝えられているものを都会の人に提供すると。だから、新幹線に乗って来ていただきたいと思って。

**【参加者】**

○「雪」というご意見について  
単純に「雪」って書いたのは、ここに住んでいる方でも、スキーに関係してい

る方は雪はいいですし、関係ない方は雪は負だと思っているところがすごい強いと。それをやはり都会の人から見ると、僕なんかすごい好きなのですから、雪道走るの大好きなのですよ。

そういうところで、やはり雪ってというのは本当に財産だと、宝物だということをもう一度考えていただきたいというのがあって、これを海外に、東南アジアに持っていきますとスキーはしないけれども、スノーシューはするとか、かまぐらに是非入ってみたいとかですね。そういうところがあるので、雪というのをもう一回自分たちの財産として、宝物として見直したいと思っております。

#### 【参加者】

○「実際に体験して自分の言葉で伝える。」というご意見について

やはり自分で実際に見ていると、ここのところなのですよね。例えば「信越トレイルってこんな落ち葉があって、ふかふかしているのですよ。」みたいなことが実体験として言えるので。この地域の中の人たちもやはり隅々まで自分たちで歩き回って、実際に見て、行ってもらうというのが非常に伝わりやすいのかなと思っています。

#### 【参加者】

○「本物」というご意見について

本物しか最後には残らない。今、皆さんがおっしゃっている雪も正に本物。そしてこの地域にあるものすべて本物だというものを自信を持って皆さんにお伝えすることが我々の仕事であるなと思っておりますので、すべてに本物でありたいと。

最後は、人間が本物にならなければ駄目だというふうにもいつも言っているのですけれども、偽物の人間が多いです。とにかく今、偽物が多くいらっしゃいますので、まず、最後に人間が本物であるということが最終目標だと思います。

#### 【参加者】

○「雪」というご意見について

ソチのオリンピックに飯山市からも竹内択選手（スキージャンプ選手。このタウンミーティング後に開催されたソチオリンピックの男子団体で銅メダルを獲得された。）が行くということもありますし、次の世界を担う子供たちが雪をとっても楽しみにしていたり、雪遊びで楽しんだりという姿を見て、そしてまた小学校、中学校、スキー教室とかがあったりして、みんな雪に慣れ親しんで、大会とかも楽しみにして出ている姿を見て、「あ、雪だな。」と思いました。

#### 【参加者】

○「秋山郷の歴史、人柄、語り部」と書いていらっしゃいますね。

秋山郷は、昔の文豪の鈴木牧之さんという方が、江戸時代の本をずっと残しておりまして、絵付きで残してありまして、その絵がそっくりまだ残っているよう

な風景がたくさんあります。

「人柄」と書きましたが、その地域の住民の方々、お年寄りなどから、来てくれたお客さんに対して話をして伝えればいいかなと思いました。

**【内山二郎氏】**

この北信濃の自然、あるいは宝物、我々が普段あまり気付いていないそういうものを、もういっぺん自分の身体を通じて良さを知りなおし、そしてそれを伝えるというようなこと。

そして特にその象徴的なものが、雪である。雪を悪者とか邪魔者で見ないで、それを積極的に宝物として認識しようというようなご意見が出ていましたね。

この辺で一言、知事、いいですか。

**【長野県知事 阿部守一】**

私はやはり本物というのは大事だと思っています。

皆さんが提案したキーワードで、私が反応する言葉は「本物」、「都会にはないもの」、「雪」、それから「歴史」です。県内いろいろな所に行っていますが、この間、佐久穂町で建築士会の人たちが、まちづくりの本を出したのですよね。本を見ると、佐久穂町の観光資源として多くの歴史が語られていて、そういう歴史を頭に入れた上で町を見ると、全然違った見え方ができるので、そういうこととても重要だなと思いました。

**【参加者】**

○「いろいろな仕掛けを作ったりしています。やはりここの宝物というのは、改めて掘り起こしてみると、いろいろなものが見えてくる。」というご意見について

正にそのとおりだと思います。いいものがたくさんあるところだと思います。

**【内山二郎氏】**

次は、「良さを見つけて形に」というコンセプト。

**【参加者】**

○「自愛、互愛」というご意見について

栄村の地震から復興支援を続けていたのですが、結局、村おこしや復興につながるということになると、やはり自助、互助、共助という言葉にたどり着きまして、それを今風に表現すると自分を愛して、お互いを愛す。そして、共に愛すことが、そういうベースができれば、何でもできるという、そういう気持ちでございます。

**【参加者】**

○「失われて欲しくない大切なものを人形という形に託して」というご意見につ



いて

この地域に住んでいる人の良さというか、すごく優しかったり、誰かを思う気持ちがとても強かったり、そういうことが言えると思うのですが。そういったものは、なかなか目に見えないと思うのです。目に見えないものが、人形館では具体的にお人形という形で表現されているので、そういう形でこの地域の良さを発信していければと思います。

**【参加者】**

○「自分の誇れるものを見つける。」というご意見について

良さはたくさんあるのですが、良いだけじゃなかなか活動にならなくて、それを一歩進めて、やはり強い思いとして誇り、自分が思える誇りを観光に関わる人もそうじゃない人も見つけるというところがやはりスタートではないかなと思います。

私自身、他の地域からの移住、1ターンで来まして10年が経つのですが、当然の如く生まれ育つとそれは当たり前のように見えてしまうのですが、そこはやはり我々がやっているとおり、交流を通して、スポーツもたくさんあると思うのですが、交流を通して外からの気づき、外の方からの意見、「この地域はいいな。」とか、「ここがいいね。」とか、どこで楽しめるか、そういうところを一つひとつ見つけて、さらに企画にしているところがあります。その交流が大事かなと思います。

**【参加者】**

○「地域文化、共有して」というご意見について

少し意味が捉えきれないというか、漠然とした感じで捉えてしまったのですが、やはり地域の文化ですね。今まで築き上げた文化と、これからまた築いていく文化ですね。それぞれが地域みんなで、共有して伝えていきたいと。それもやはり、これからの一番の課題かなとは思ったので、少し意味が捉えきれなかったのですが、そういう意味で書きました。

**【参加者】**

○「地域の人々がマイナスだと考えていることを集めて、それに価値を付けていく」というご意見について

皆さんがおっしゃっていることと同じなのですが、私どもの事務所がある所は冬4メートルの雪が積もります。地域の方はやはり大変だと思われるのですが、私ども、都会から来られる方は、本当にそんな雪見たことがなくて、そういうところがいいところなのではないかなということを見つけるために、マイナスからスタートするのはどうだろうと。

**【参加者】**

○「地域の良さが分からない人に良さを教えることができ、地域の住民が皆、地

域自慢ができるようになれば、自ずと伝播されるのではないだろうか。」というご意見について

やはり「住んで良し。訪れて良し。」という観光地づくりの中において、地域の住民の皆さんが地域の良さを知って自慢し合えるような環境にあれば、自ずと訪れて来た人たちも「それはいいな。」と思うだろうし、「いいな」の輪が広がって良い観光地ができるのではないかなと思います。

外から移住してきた一人としては、やはり「いいな」と思って引っ越してきましたので、そういう意味では私が言っていることも少しは伝わっていただければいいなと思うし、多くの人たちがこの地域に移ってきていらっしゃるので、その人たちの輪が「いいね。いいね。」となっていくといいなと思って。

きっとそういう輪は広がっているのではないかなと思います。

#### 【参加者】

○「深い雪によって培われてきた里山文化と協働の意識。人情は北信の特長であり、訪れる人々にも当たり前のようにできる心遣いは強みである。謙遜の文化を自慢の文化にしたい。」というご意見について

北信の人って、やはり「何でもねえけどさ。」とかね、「おらんちなんか、汚ねえさ。」とか、そういう謙遜をなさるのです。それがまあ美德だというふうにならずと染み込んでいる。それが雪の中で暮らしてきた人間の仕方のない表現の仕方なのかなと、そんな感じがするのですが、そんなことはないんだよ、ということ。素晴らしさっていうのは自分で気付いていないだけで、先ほどからお話になるように、外から来た人たちからの目で見ると非常に素晴らしいものがたくさんあるというふうに皆さんおっしゃっていただいております。

それに是非、みんなで気付いて自慢を外に発信するというのがいいのかなと。先ほど、「誇り」という言葉も出ていましたが、正にそういうことだと思います。

#### 【内山二郎氏】

誇りとして捉え直し、それを外に向かって発信するということですね。ありがとうございます。

ということで、良さを気付いていない、あるいは気付いていても自ら発信しきれていないというか、遠慮している。そういうふうなものを積極的に、自信を持って発信していくというようなことになりましたね。

知事も先ほど、ここは宝の、いろいろな自然にしても、歴史にしても、文化にしても宝庫だということをおっしゃっていただきましたよね。

#### 【長野県知事 阿部守一】

先ほども「マイナスを集めて価値にしていく。」という話は非常に面白いなと思って聞いていたのですが、今皆さんにお配りしている長野県の「しあわせ信州創造プラン」、その概要版冊子の一番裏に「掘り起こそう、足元の価値。伝えよう、信州から世界へ。」とあります。これはブランド戦略の中で、こういうスローガン

でやってきているのです。やはり身近な所にある価値に、全然気が付いてないのではないかというところを、もう少しみんなで掘り起こす必要があるのかなと思っています。

私も最近慣れてしまったのですが、この間、外国に行ったら改めて普通の空気が吸えること、普通に吸えるだけじゃなくて、こんなにきれいな空気を吸えることっていいなと思いました。水とか景観は何となくいいねって言うのですが、空気ってあまり普通考えないけれども、私は多分国外から来る人たちから見たら、「こんなにきれいな空気があったんだ。」と思う人たちも多いので、そういうことも含めて、やはりもう一回、価値を見直した方がいいなと思います。

**【内山二郎氏】**

価値、良さを見直す。そして、自信を持って発信していくというね。

「伝える」というグループにいきましょうかね。

**【参加者】**

○「スノーモンキーを世界中に向け、ネット発信する」というご意見について  
今、世界中からスノーモンキーを見に訪れています。今の時期ですと、本当に7割、8割の方が外国人のお客様という中で、やはり山ノ内町の一番の宝だと思っておりますので、それをフェイスブック等の SNS を利用してこちらからも発信するし、来ていただいたお客様自らが写真を撮ったり、口コミを書いたり、発信してもらおう。それをまた見て訪れていただく。そういう形でやっていければなと思います。

**【参加者】**

○「様々なイベント、取組を発信し続ける。元気を発信する」というご意見について  
発信するって結構難しいことかなと思っております。  
新聞とかテレビを使うとお金がかかります。ですので、いろいろその地域のことを元気を出して発信し続ける。どういった文化だとかね。そういう地域の元気をとにかくみんなで発信し続けることが、伝える最も良い手段ではないかなと思っています。

**【参加者】**

○「観光客が自ら発信する方策を」というご意見について  
発信は、確かに難しいですから、「いいな」という輪を広げるために観光客の皆さんに協力してもらおう。観光客の皆さんが自らあっちこっちで情報を発信する。情報ツールいろいろあると思いますけれども、そんなことを促すようなシステムを考えたいなと思います。

**【参加者】**

○「自然からいただいたものを生活に生かしている。今の時代に必要なことを伝えていけばいい。」というご意見について

観光というかね、人を集めるというのはあまり固定的に考えない方がいいと思っているのですよ。時代に合わせてどんどん人は変わりますからね。だから自然という概念も今どんどん変わっていますから、伝え方はそれに合わせて、例えば、先ほどからおっしゃっている「本物」とかね。正しいことを正しく伝えて伝わる時代じゃないので、時代に合わせて正しいという言い方を変えなければいけない。時代は変わるということをね、いつも念頭に置いてコミュニケーションをした方がいいのではないか。それから価値観を、それを考えないと何を言っても何も伝わらないですから。昔から「うちは本物だ、本物だ」と何百回と言ってきたはずですよ、どこだって。それでも今伝わっていないのは、やはり時代を見ていないからだと思います。

僕は外から来たものでね。好き勝手言いますが、やはりもっと時代が変わっているんだということを別の視野から見ないと、新しい価値は出てこないと思います。

#### 【参加者】

○「広域で連携して、様々な媒体を使って発信する。」というご意見について

今までどちらかという、自分の町とか村とか市の観光資源だけをピーアールしてきていたと思うのですが、やはりお客様からすると、どこの市にあるとか町にあるとかそういうことは関係なくて、またそのそれぞれの市町村によっていろいろな魅力は違いますので、そういったことを総合してみんなで発信していけばいいのかなと思います。発信の媒体としては、年齢層とか、いろいろな媒体が、その都度考えていけばいいかなと思います。

#### 【参加者】

○「他の地域の様々な伝統文化を伝える中で連携してアピールしたい。現代は手作りが見直され、価値を上げている、そういう時代である。」というご意見について

中野の伝統的なひな人形、土人形なのですけれども、年1回、ひな市というのが行われています。これ、とても有名なのですが、一部では有名なのですが、全国では多分知られていないと思うのですね。手作りの良さっていうのは、本当に地の良さとか暖かみのある何とも言えない、この田舎の長野らしいのですよね。それを知っていただきたいと同時に、土人形のルーツっていうのは一つなのですが、それが全国に散らばっていく過程があるのですね。歴史の中で。どの方も歴史、故郷があるわけで、全国の方に、来ていただいたときに自分のふるさととこれがどういうふうにつながっているのかなというところに興味を持って見ていただければいいなと思います。

#### 【参加者】

○「志賀高原ユネスコエコパークの認知度を上げる」というご意見について

志賀高原は皆さんがおっしゃるようにスキーだったり、林間学校だったりということが今のところあったのですけれども、ユネスコエコパークというのに認定されまして、これは日本に5ヶ所しかない。この認定をされているのですが、なかなかその認知度が上がらないので、去年の夏ぐらいから認知度を上げようということで努力をしています。でも、なかなかやはり認知度というのは簡単には上がらなくて、いろいろな部分でモデル事業をやっているのですけれども、よく文科省に怒られながらやっております。

**【参加者】**

○「日本一の千曲川が流れる日本の原風景を売りにする。」というご意見について  
高野辰之先生のふるさと。これを是非主体にしてこの地域を発信できればなど、そんなふうに思っております。

**【参加者】**

○「中野市の土雛。音楽文化を広く伝える、伝え方を知りたい。」というご意見について

「己の良さを知る」というのは、もう今どこの市町村も己の良さというのはそれぞれ多分全員知っていると思います。そんな中でどう伝えるかというのが一番大変なのですよね。その伝え方というのはなかなか皆さん苦労していると思います。それぞれいろいろな面でピーアールをしているのですが、どのぐらい伝えたい人に伝わっているかというのは分かりませんよね。そういう点において、伝え方ということについて、もっと皆さんから知りたいということで書いたわけです。

今までいろいろ聞いている中においてはもういろいろ出ましたので、本物を伝えるとか歴史的に伝えるとか、そういうのは分かるのですが、なかなか一本に絞れていけないというのが大変だと。伝え方が。

**【参加者】**

○「知名度が不足。何か大きな花火を上げる方法がありますか。」というご意見について

いきなりネガティブな書き出しで恐縮です。阿部知事の存在を少し意識し過ぎてしまいました。

昨年、阿部知事においでいただきまして、「信越自然郷」ということで、このエリアネームを決めていただいたのですが、やはり県内では安曇野ですとか、軽井沢ですとか、その言葉を聞いただけで地域イメージが創造できるようなイメージのところがある。そういったところを大変羨ましいなという感じもあります。

そうした部分でこの「信越自然郷」というのをどういうふうに伝えて発信するかというのが私どもの仕事の課題にもなっていますので、このミーティングの中で少しヒントをいただけたらなと思います。

【内山二郎氏】

そのネーミングがされたのはいつなのですか。まだ歴史は浅いですね。

【参加者】

去年の3月です。例えば地元の高校が甲子園で優勝するとか、あるいは飯山市出身の竹内択選手が金メダルを取るとか、そうした中で広まって大きな花火になるのかなと思うのですが。いろいろな情報を伝える手段がある中で、何をどう伝えていけば一番効果的に伝わるのかなという部分が少し知りたいなということです。

【内山二郎氏】

なるほど。「信越自然郷」という名前、僕はすごく素晴らしいなと思ったので、ちょっと時間がかかるかもしれないけれども、広まっていくのではないかなという感じがしますけれどもね。

次は、「世界に冠たるスノーリゾート群を海外に向けて、メディア、インターネット、口コミ等で広める。」これは、阿部知事でした。

【長野県知事 阿部守一】

自然とか原風景ということの良さというのも、もちろんなのですが、多分日本の他の所も同じようなことを言うでしょう。そういうことを考えるとやはり、これだけスキー場とかスノーリゾートが集積している地域というのは、そうそうない。しかも、それぞれのスキー場のレベルが非常に高い地域ですから、そこをやはりしっかり発信していく必要があるのかなと思っています。雪と戯れる、スキーやるならもう「信越自然郷」だというようなことでばっちりやろう。先ほどの前段のところも雪っていう話とか、本物っていう話とかいっぱい出ているので、やはり他と差別化するときには何を際立たせるかということはいくらも考える必要があるかなと思っています。具体的な県名を言ってしまうと、青森県とか山形県とか北海道とかでも、同じようなことを言われたいものは一体何かということをやったり掘り下げていく必要があるのかなと思っています。

【参加者】

○「ありのままの自然を広く伝えたい。その地域独特のものがあるので」というご意見について

都会の方から来たお客さんに、漠然と「いいところですね。」って言われるのですが、その中で、例えば「この地域が赤い屋根の家が多いのですが、どうしてですか。」って何人かから聞かれまして、自分たちは全然なんとも思ってないのですが、地域独特の風景とか自然が他から来た人には全く別の世界っていうか、見えるのではないかっていう、思いまして。そういうのを何とか見つけ出して広げられたらいいかなと思っています。

【内山二郎氏】

なるほど。自分たちが、普段普通に思っているのだけれども、外から見るとそれが新鮮に見えたりする。

まだ発言してないという方いらっしゃいますか。

【参加者】

私は栄村の地域の名前が箕作(ミツクリ)だとか独特なものが多いのですよね。それをスタンプラリー式にして回ってみたらいいかな、なんて思ったのですが、少しぐちゃぐちゃに書いてしまって、出せなかったのです。すみません。何で箕作というのかとか、泉平(イズミダイラ)がなんであんな高いところにあるのに泉の平らなのかとか、分からないものがいっぱいあるのですよ。だから、そういった地名を何かで作って、回って行けたら情景などもあるので、いいのではないかなと思ったのです。

【参加者】

○「フェイスブックフェイスの関係。それをいろいろなインターネットだとか、つぶやきサイトなんかでも発信していく」というご意見について

観光振興なので、観光従事者の皆さんは当然年間予算を持っていて、どこにどんなふうにとというのは、戦略を立てて、戦術をかけて、計画を持っていますから、それはそれでいいと思うのです。それだけですと、なんていうのか、「来てください。」が強すぎるので、僕が書きたかったのは、我々観光従事者以外の住民とか、途中でお話ありましたが、観光にはノータッチの方も、今の時代であればフェイスブックとかツイッターとかいくらでもやっていますので、僕らが商売として、お客さんを呼ぶというツールというネットワーク以外の、人と人のお付き合い、元々あるネットワークを生かして良さを発信してもらおう。どう伝えるかの「How」そこをやらないといけないかなと。どこにとかいろいろなものはもう、個々が今持っていると思うので、その結果、今、年間何万人も来ているわけですから。うまくいってないっていうのは、もっと上を目指しているから、今うまくいってないと思っているので、知られてはいるとは思っています。知られてなければ一人も来ないはずなので、これだけ年間何万人、何十万人来ているので、その精度をどんどんあげていくために一般の方の力を使わせてもらうという意見です。

【内山二郎氏】

他に、まだ発言をされていない方はいらっしゃいますか。

【参加者】

スノーモンキーのことで私も書いたのですが、道の駅にいますと、スノーモンキーを知っている人はいっぱいいるのです。露天風呂に入るお猿さんを知っている人は、外国人の人は、皆さん来る人は全員知っています。それから日本人の

方も知っている人は多いのですが、我々山ノ内町の、ここにあるってことを知らない人がどれだけ多いか。だから、知らないで通り過ぎてしまう人もいっぱいいるのです。ですから、どう伝えるかは、十分伝わっている部分と全然伝わっていない部分と相反しています。それをどうしたらいいのか、少し分からない部分があるのですが、そういう実情があるのです。皆さん知っているのです。でもここにあることに気付いてない。存在は知っているのです。だから、もっと言うと、群馬県から長野県に入ります、ここは何県なのかそれも分からない人も多い。極端な言い方しますけどね。ですから、それがすごく残念で私、話して伝えてあげるのでですけどね。「あっ、ここにあるんだ。じゃあ行ってみよう。」と言ってくれるのですが、そういう機会がない人は通り過ぎて行ってしまいますね。もったいないです。それがやはり課題だと思います。

**【内山二郎氏】**

この「己の良さを知り、どう伝えるか」という第1の視点につきましては、全員発言されましたでしょうか。

では、「ヒト・モノ・コト なにをどうつなぐ（連携する）？」という第2の視点に移ります。すでに関連する課題提起はずいぶん出ていましたけれども、ここでは「連携に必要なのは何か」、「情報の共有」、「具体的にはどうする」というようなグループに分かれました。

まず、「連携に必要なのは何か」から。

**【参加者】**

○「村の生活」というご意見について

村の生活って、僕、外部から来たものですから、すごいコミュニケーションがよいのですね。村が村を呼んでくるというような形で、村の事業とかいろいろなものがつながってくれば、もっとつながるだろうと。そこら辺を大事にしないといけないのかなと感じていますね。

**【参加者】**

○「近くても意外と知らないことが多いので、まずは身近なところの良さを知ることが大切なのではないか。」というご意見について

観光関係の仕事についているのですが、本当に自分の住んでいるところですか、近くは知っているのですけれども、ではその隣の隣は知っているのかというと、知らないことが多かったです。お客さんは先ほどもご意見があったように、市町村の境は一切関係ないので、今駅で降りたら、どこどこに寄って帰ろうっていう形になるので、そこらへんももう少し広げて、自分が知ることが大切かなと思います。

**【参加者】**

○「会う、話す、共有する。」というご意見について



紙面で見ると成功事例ですとか、自慢話って、あまり実はおもしろくないのではないかと思っていて、それよりもなんか「実は、こういうことで困っている。」ですとか、「大変だ」とかいう話をお互いすることが連携のポイントになるのではないかと思います。例えば、信越トレイルで言いますと、トレッキングの起点となるポイントまでは、まだまだ交通機関が充実してないというところがあって、困っているところなのですが、そういうことを事業者の方にお話することで、じゃあ何かやってやろうと思ってくくださるかもしれない。

**【参加者】**

○「共愛」というご意見について

第1と第2の視点が連携しているのですけれども、やはり意外と共にこうやるというのは最初はすごくいいのですが、それが長続きしないというのが結構あります。観光業というのはお互いに自分のいいものを持っていますから、それを盗まれないようにしようということで、意外と憎みあうところもあります。そういうことがないように、やはり共に伸びることを考えた方が、いいのではないかなとそういうことです。

**【参加者】**

○「モノ、コト、すべてヒトがいなくては始まらない。」というご意見について

先ほどの「本物」と連携はするのですけれども、物という部分についてはお金であったり、施設であったり、あるいはコトという部分ではイベントであったりというような連携は結構されていると思うのですけれども、なかなか人と人の交流ができていないのが現状じゃないかと。まず、知事と、今日おいでになっている皆さんとの、人と人との連携を大事にしながら、そして次にどういうものを作る、あるいはどういうことをするのかということにつなげていかないと。人を育てるところからひとつ、始めていただければありがたいと思います。

**【参加者】**

○「人形の世界を現実世界とつないでいきたい。」というご意見について

お人形を見ていただいた後に、実際に地域に出ていただいて、本当の人たち、実際にお住まいの人たちと、コミュニケーションをとっていただけるような仕組みをしっかりとつないでいければいいかなと思っているのです。

**【内山二郎氏】**

連携というイメージから少し本質的な視点とか、出てきましたけれども、知事、これになんかコメントを加えたらどんなことになりますか。

**【長野県知事 阿部守一】**

難しいですね。私もすべての基本は「人」だと思っているので、人同士がもっとつながらなければいけないなと思っています。いろいろなところでよく言って

いるのですが、こういうことを県がしてくれと、私の所にいろいろな要望をしに来る方がいっぱいいるわけです。けど、「要望にくる人たち同士が、もっとつながれば解決できるのではないの。」という話は山ほどあるので、是非そういう人のつながりを地域の中でもっと進めてほしいなと思います。それから、もう一点。困っていることが連携のポイントだっていうのは、私もそこは大事だなと思います。今、「丸の内朝大学」といって丸の内のビジネスマンが朝集まって、地域で困ったことをみんなで解決しましょうという形で、わざわざその地域にでかけて行って取り組んだりしているわけです。むしろ、地域は困りごとを内に抱え込まないで、これ困ってしまっているんだと。他の地域とか、周りの人と一緒に協力できないかっていう、積極的に課題を中心に呼びかけて人のネットワークを作るっていうやり方もあるのではないかなと思います。

**【内山二郎氏】**

「俺たち、こういうこと困っているんだ。俺たちを助けてくれない。」ということ発信できる、これも発信の一つかもしれないね。「それだったら、俺たち、協力するよ。」とか「面白いじゃないか、やろうじゃないか。」という話になるかもしれないですね。

次は「情報の共有」のグループです。

**【参加者】**

○「情報の共有化 他を知るための努力と人づくり」というご意見について

情報の共有化というのは、どこでも当たり前のことだと思いますので、それは最低限の取組だと思います。やはり一番は、人のネットワーク。私も今、観光案内所にいますと、さまざまなこと、県のこととか、いろいろ聞かれます。その時に、「そこは私ども関係ないので。」というようなご案内はできないので、あらゆる方策でお伝えするのです。そういうときはやはり人のつながりさえあれば、いくらメールでも電話でも、今の時代ですので対応できると思いますので、そうやって広げる部分、そういうのが一番だと思います。

**【参加者】**

○「町民の誰に聞いても説明できる状態がほしい。」というご意見について

先ほどのスノーモンキーでもそうなのですが、情報を共有するということにもあてはまるのですが、地元の人がみんなが知っていて、お客さんに誰に聞かれても即座に答えられるような、そういう状況というのは、やはり大事だと思うのです。どんなことに対してもね。なかなか難しいかと思うのですけれども、やはり観光客の人というのは地元の人との会話を楽しみたいという人が多いと思うのです。ですから、そういうことの中でも、聞かれたら教えてあげられる、そういった教育と言いますかね、子供の時からやはりそういうのも必要だと思うし、お客さんの受けがとってもいいことだと思うので、そういう意味です。

**【参加者】**

- 「観光資源の共有。発掘と商品化」というご意見について

観光資源というのはたくさんあると思うのですが、さらにというので、新たな観光資源はどういうものだろうというふうに、共有の中で、やはり価値観というものを全員で共有できればなあと、そう思います。

**【参加者】**

- 「結局は人と人をつなぐこと、粘り強く話合いの場を設けること」というご意見について

結局は「人」なのでね。必ずその人が背負っている立場を立てて話をしなければいけないのですが、その人が持っている価値観を時代と共に否定することもあるのですよ、結局は。そここのところがうまくいかなくてね、連携ってなかなかうまくいかないの、粘り強く話し合う以外ないのではないかと思います。

**【参加者】**

- 「地域全体で共有し、意思統一をし、発信する」というご意見について

近隣9市町村と自然郷ということでやっております。では、その一番の魅力は何だということを、近隣9市町村全体で確認をして、地域住民が広報マンになりますので、地域発信していける。中に入れば各市町村ごとに何が魅力なのかということ各市町村の全体の住民が確認して、また広報マンとしてやっていただける。こういう情報の共有が一番大切かなと思います。

**【参加者】**

- 「同じスタイル、統一感というか、色」というご意見について

例えば、新幹線の駅を降りたら同じお花が咲いているとか、それぞれのなんかこう、コスチュームが一緒だったりとか、それぞれの例えば飯山市で言ったら、スイーツ屋さん並んでいる商品がみんな一緒だったりとか、なんかそういった部分かなあと。思って。

**【参加者】**

- 「経済、道の駅ふるさと豊田」というご意見について

簡単に書けば、あまり話すことないと思ったのですが。少し考え方が違うか、知らないのですが、ヒト・モノ・コト、もう一つですよね。そこら辺を連携していろいろなものを作って行くには経済、経済発展を目的にしてそこら辺を連携していかななくてはいけないのではないかと。

**【参加者】**

- 「まずは集まる。ヒト」というご意見について

現場で思っていることとして、自然がらみの事業者って結構たくさんあると思うのですが、「信越自然郷」と言いながら、全然集まってないのですよ。これは長

野県内全体でそうなのですが、まずはそこからスタートだなと。いろいろな取組で集まっている方、たくさんいると思うのですが、現場レベルで集まっている機会がなくて、そこで先ほど困っていることとかいろいろあったと思うのですが、そういう場面も。そしてこの「信越自然郷」で言えば、ここへ来たお客様に、次は、あそこにああいう人がいて、おもしろいからあそこも行ってみなよって、地域全体でお客様を回す仕組みにもなり、それが地域としてサービスの向上にもなるというところは、この現場では今はないので、まずはそこを書きました。

**【参加者】**

- 「観光情報をそれぞれの活動、取り組みの情報共有と発信こそ、地域住民や観光客のつながりになってくるのではないか。」というご意見について  
北信地域の観光振興について、自分の地域以外の観光地のことを知らない人たちが多すぎるので、その辺の情報共有をしましょうというそういう話です。

**【参加者】**

- 「地域住民の生まれ育った郷土を愛する心。地域の宝物を生かす。」というご意見について  
要するに自分の地域を本当に愛する心があれば、一生懸命、積極的に自分の地域を皆さんに知らせたり。そういう情報を発信してくれるのではないかと思います。愛する心、やはりすべて何をするにもそういう心が、熱き心がないと話が進まないのではないかな。

**【参加者】**

- 「北信広域で連携し合い、他県に負けないよう、国内、国外から誘客する。」というご意見について  
ここにいらっしゃる皆さんはそれぞれが本当は、観光地としてはライバルなのですけれども、お客様目線から見れば、単なる点の観光地ではなくて、面としての観光地として捉えていらっしゃるお客様が多いので、ここにいる皆さんがそれぞれ良さを理解しながら連携していかなければいけないと思います。

**【参加者】**

- 「アメンバーのように互いを利用し合うことが必要ではないか。」というご意見について  
9市町村でそれぞれの市町村を学習し合うということをしたのですけれども、お互いほとんど知らないということが明らかになりました。その時に、お互い利用してしまえばいいねってということがありまして、その利用の仕方ってというのは何かどうしようかということではなくて、もう個々にどんどん利用してしまうところから、始めてしまうということが大事なかなと思います。

**【参加者】**

○「本物であるものを地域全体の財産としてみんなが発信、利用を進めたい。」というご意見について

先ほどから皆さんおっしゃっているとおり、本物のある地域ということでありますので、それがどこの市町村にあるっていうのは、まず関係がなくて、例えば飯山の駅を利用してもらうためには、「志賀高原のそばにある飯山駅ですよ。」でも結構だと思うのですね。また、「野沢温泉に行くには飯山駅で降りるのですよ。」というご案内の仕方もあると思うので、そういうのが自由にですね、各地域の観光素材を自由に使って、自由に宣伝できるような行政のエリアにとらわれないスタイルがやはりこれから必要なのではないのでしょうか。

**【内山二郎氏】**

「情報の共有」の中に「具体的にはどうする。」という子グループができました。こちらについて伺います。

**【参加者】**

○「中野市としてまず、横のつながりを作る。それを他市町村と横の連携でスクラムを組む。」というご意見について

中野市にはバラですとか、土雛ですとか歌ですとか、農業ですとかそういう魅力がありますから、そういう魅力をまず横でつなげて、一つの町としてスクラム組んで、その延長で北信州一つにまとまればいいのではないのかなと思います。

**【参加者】**

○「飯山駅よりの二次交通について、人、物、観光の連携が必要ではないか。」というご意見について

観光のお客さんが来てもらうためにはやはり、飯山駅周辺だけでなく、離れた9市町村にも連携をとっていってもらわないといけない。そんなことで、交通面においてはどういうふうに具体的に持って行っていいか、そういうことを少し考えていて、その中で各市町村の良さを知り、知っていただくのがやはり観光につながっていくのではないかということで、二次交通が大事じゃないかと思っています。

**【参加者】**

○「各市町村の地域間を飯山線を使う。観光列車としてつなげる。」というご意見について

JR飯山線っていうのはこれから新幹線が通ると枝線の列車になるのですけれども、長野駅から新潟県の越後川口駅まで走ってしまして、冬はまったく雪のないところから積雪2メートル、3メートルっていうところを走るっていうことで、魅力があると思いますし、また夏場は千曲川、また信濃川と名前を変えるところを走る列車として、観光列車という形をとってそれを利用した中で、それぞれの市町村が企画を出してまとまればいいのではないかなと思いました。

**【参加者】**

- 「ワンストップ窓口を作る。」というご意見について

今、皆さんからですね、ここに来てもらえば、本物があるとかですね、みんな、言葉で伝えあおうとかいうのがあるのですが、お客様から見てそれが分かりやすい、どこを見ればここに来られるのかなっていう、ここにこう流してくれるそういう窓口が必要なのではないかなって思っています。こちらにはこちらのそういった窓口も必要だし、これから県の方でも銀座の方にそういった窓口も作るわけですが、分かりやすい情報を集中的に流すところというのが必要なかなと思っています。

**【参加者】**

- 「観光情報の整理。各観光協会の持つ情報の一元化が必要ではないか。」というご意見について

整理すること。今日はいろいろお話出ていますが、各観光地は観光協会お持ちですし、それぞれ自分の所の情報は持っているのですがよそのは知らないという、正にそのとおりだと思います。それを皆さんに「情報ください。」というとなかなか出てこないのは当たり前なので。誰か例えば、あくまで仮に飯山市の観光局さんが音頭とっていただいて、誰か専任者を設けて経費負担は各地からの観光協会が負担するぐらいの勢いで、その人をフリーにしてもう毎日、何月何日のどこには何がどんな形でイベントがあるんだというのを1年間ずっと追っかけさせるぐらいの取組をさせてもいいのかなと思います。それで各観光地がその情報を共有する。それぞれの観光地の地元の住民の方は、自分の観光協会に聞けば、飯山市だろうが中野市だろうがすべての情報が分かる。お金のかかる話なので、その辺までやらないとダメなのかなって思っています。「みんなで頑張りましょう。」というのは、多分明日になれば無理なので、もう予算立てして特任の方を経費をかけて送ってしまうと。その方がいずれは新幹線の窓口の観光案内所にもいいと思います。

**【参加者】**

- 「すべての主体が自らの儲け仕事として取り組む」というご意見について

お願いしていることなのですが、本当に傍観することなく、自分の儲け仕事なのだという意識でとらえていただいて、「信越自然郷」を大いに利用してもらいたいと思っています。

**【参加者】**

- 「観光施設や地域の食など合わせて特色をピーアールする。」というご意見について

観光施設とかそういったものはそれぞれピーアールしているのですが、やはり泊まられれば食事もされますので、食事もその地域、地域の特色を生かし

たりとか、先ほど観光の方も、本物という話がありましたけれども、食事も本物を提供することが大事なのではないかということです。

#### 【参加者】

○「県からの発信、市町村からの発信、地域からの発信」というご意見について情報の共有化というような話と同じなのですけれども、例を一つあげますと、私どもの所は長野電鉄の湯田中という駅が終点ですけれども、そこに観光案内所があるわけです。そこでお客さんが聞くことは山ノ内町のことよりも、「小布施町はどうなのよ。」というようなことを聞くわけです。そういうことが、新幹線が来るということになると、もっと広域の9市町村じゃ収まりきれないぐらいの広域のものが出てくると思うのです。そのへんのところとどう連携するかということが大事だと思います。

#### 【内山二郎氏】

なるほど。もっと広域でということですね。視点が必要ではないか。

ということで、最後のカードで知事がおっしゃっています。「北信圏域の観光地同士、プラス他圏域の観光地の移動を容易にできるよう交通手段をつなぐというようなこと。」このご意見も含めて、全体についてコメントをいただきたいと思います。

### 3 知事 感想と結びのあいさつ

#### 【長野県知事 阿部守一】

私の意見は、即物的な話で書いたもので、私から見ているともう少し広域的な視点が必要だし、そこが正に県が考えなければいけないことだろうなと思っています。特に海外から来るお客さんを考えた時に、個々の市町村はもちろんですけど、「信越自然郷」のエリアだけでもまだ狭いだろうなと思います。我々は、アメリカに行ったら、平気でロサンゼルスから、サンフランシスコや、シアトルに行って、場合によったらニューヨークまで行ってしまうというように大きく動くので、やはりそれぐらいの広さを視野に入れて考えなければいけないだろうなと思います。

どちらの視点でも、結構似たキーワードが多いなと思っています。私なりにいろいろ考えたのですが、第2の視点「ヒト・モノ・コト 何をどうつなぐ（連携する）？」からいくと、皆さんが言っていたことを総合すると、まず「つなぐ」と書いているのですが、どうも今の皆さんの話を聞いていると、つなぐ以前に壁をなくす方が早いのではないのかと思いました。一番典型的なのは市町村の観光パンフレットというのは、市町村の境のすぐ外側でも視野に入れなくて、自分の所の話ばかりをしていますよね。これは県も同じなのですが、やはり、まず心理的な境目を取っ払っていかなければいけないのでしょうか。先ほど、どなたかがおっしゃっていましたが、資源はもうフリーアクセスにしてしまっ、もう「こ

こは何とか村の資源だから、他の所が宣伝してはいけない。」というような自己抑制をしているところが結構あるのですが、それはもう変えていくような発想を持たなければいけないのではないかなと思いました。

勝手にまとめてしまうと、第1の視点「己の良さを知り、どう伝えるか？」の方は、皆さんがおっしゃっていたことを総合すると、地域を愛しましょうということ。自分たちが自分たちのことを愛すると。その前提として地域学などいろいろありますけど、やはり地元学、地域学、地域のことをもっと子供のうちから学ぶようなことをしっかり行って、その上で、人と人同士がしっかりつながって、意思統一、統一感を持たせるということが必要なのだろうなど。

「しあわせ信州」のマークをいろいろなところにつけていますけど、私はこれは是非皆さんにももっとどんどん使ってもらいたいです。このハートマークが好き嫌いいろいろあるかもしれないですけど、もう県としてこれで決めているので、いろいろなところのパンフレットにどんどん使ってください。そうすることによって、こんなマークどっかで見たな、そういえば、長野県のマークじゃないのと。例えば、横浜に行ったとき、横浜の駅とかでいろいろな皆さんの所も含めて、長野県の観光地のポスターがいっぱい貼ってありました。だけど、知らない人から見た時に、例えば野沢温泉と志賀高原、どういう距離感だとか全然分からないですよ。これがもっと違うところになると「軽井沢ってどこの県だ。」とか、「上高地はもしかしたら、岐阜県じゃないか。」とかですね、そう思っている人たちも中にはいなくもない。長野県・信州ブランドというと、それぞれの地域のブランド力が高いのが強みでもあり同時に弱みでもあると思っています。これから、日本全体にあるいは世界に発信していこうという時には、やはり先ほど言ったように、例えば市町村単位で、「これがうちの売りだ。」とやっても、それは絶対伝わっていきません。それも必要なのですが、やはりもっと広い枠組みの中で皆さんに結集してもらいたいと思っています。皆さんの個別ブランドを侵害するつもりはないです。だけど、その横に「しあわせ信州」を必ず入れてもらえるとありがたいなと思っています。

まだまだ、我々県自身も努力していかなければいけないと思っていますけれども、例えば自動車会社を考えた時に、いろいろな車種、ブランド持っていますよね。だけど、そのメーカーの商品という枠組みの中で信頼感に支えられて、個別の車種のブランドができているという構造になっているので、私たちも信州というブランド力を皆さんで高めていただくことによって、それぞれの地域ブランドを高めていくということで考えていきたいと思っていますので、是非そこは協力いただきたいと思っています。

それから、2、3人の方が触れていたお金の話がありましたけど、私がきれいごとなんて言ったら怒られてしまうのですけれども、こういう場でやると、結構きれいごとの議論になってしまいがちですが、やはり結局地域にいいものがあったとしても、それを持続可能に発信して、持続可能にお客さん来てもらうような仕組みにするには、お金の話はもっと正面から考えた方がいいのではないかなと思っています。



以前、ある人たちと話した時に、活動状況の報告として「こんな案内標識があります。」とか、「こんな食材を使って、こんな食品を加工しました。」という発表をしてもらったのですが、その時、私が質問したのは、お客さんに来てもらうのはいいけど、「来たお客さんは、いったいどこでお金を落とすの。」ということです。でも、「そこはあまり考えてない。」という答えでした。確かに、利己的な形の金儲けの思想では長続きしないと私は思いますけれども、だけどやはり人にいい景色を見てもらったり、人にリラックスしてもらったり、いいものを堪能して味わってもらったりしたときに、持続可能にお客さんに来てもらうためにはやはりお金が回っていかなければいけないので、どこでお金を落としてもらうとか、どこでお金を使ってもらうのかという話はやはり正面から向き合って、その仕組みを作っていくと、善意の気持ちだけとか、良かれと思う気持ちだけでは長続きしないのではないかなと思っています。

それから、同じような意見をお持ちの方が多かったと思いますが、やはりどう伝えるかという話は地元の人を中心だなと思います。皆さんの中でも多くの方はそう言っていましたし、マスコミに頼ろうという話はほとんどなかったですね。私もやはり地域の人が一番知っていなければいけないし、地域の人が自分の地域のことを語れなければ、人には絶対伝わらないだろうかなと思っています。そういう意味では地域の皆さんが自分たちの資源、自分たちの資源というのは、先ほど言った狭い意味の自分たちの地元の、足元の資源ももちろん必要だけれども、どうもやはりもう少し広い視野で周りも含めた資源を見直して、そこで見つかってきている本物の暮らしではないかと私は思うのです。歴史も文化も食も全部私は暮らしだと思うので、メディアなどに最初から頼るのではなくて、個々人を中心に、やはり本物の暮らしを自分が発信するんだという思いで、今はいろいろな発信手段があるので、個々人がもっと発信をしていくということが必要だと、皆さんの話を総合すると、そういう話だったのではないかなと思っています。

私が、もう少し考えなければいけないのではないかなと、皆さんの話を受けて感じたのは、先ほど言ったように一つはお金は、もう少し意識した方がいいかなということ。もう一つは、伝え方。個々人が発信したりすることが重要だと思うのですが、伝え方は一工夫した方がいいのではないかなと。さらにもう一つ言いたいのは、ここだけ、オンリーワンは何かというのを突き詰めて考えた方がいいかなと思います。

オンリーワンと伝え方の一工夫っていうのは、少し若干矛盾するところがあると私も言いながら思っているのです。オンリーワンは、多分伝え方を工夫しなくても、伝わると思います。ここだけのこれ、例えば、山ノ内町だけのスノーモンキーっていうのは、伝え方を工夫しなくても伝わると思います。だけど、多分雪とかですね、美しい景色という話になると、やはり伝え方を一工夫、一ひねりしないと、うまく伝わらないのではないかなと思います。以前、山ノ内町に行って星空を見ていたとき、「知事、空を見てくれ。人工衛星も見えるんだよ。」と言われました。本当に見えるわけですよ、人工衛星が飛んでいるのが見えます。東京などでは、人工衛星なんか絶対見えませんよ。例えば、「人工衛星も見

える星空」とか、都会の人には必ず伝わるのではないかと私は思いますし、そういう意味では、オンリーワンは何かということを考えてもらうことと同時に、オンリーワンではないけれども、自分たちの良さをどうすれば伝わるのかということを一ひねりするということが必要なのではないかなと思って、己の良さを知りどう伝えるかっていうことを聞いていました。

いずれにしても、多分、今日皆さんもここ参加して聞かれていますけど、皆さん言い方とか角度は違ってはいますが、大体同じことを言っているのではないのでしょうか。私が勝手にまとめてしまっていますが、多分皆さんそれぞれ、「自分が言っていることと、この人が言っていることってすごく似ているな。」ということを感じたのではないかなと思うので、もっと煮詰めていくと方向性っていうのははっきり出てくるんだと思います。

今日は内山さんにコーディネート役をやっていただいて、こういう話の場を作ったわけですが、是非それぞれの地域とかでもこういう形でやっていると、先ほど場作りとか統一感とかいう話があったけれど、地域の中でそれをやるのは結構難しいという感覚を皆さん持たれているし、私もそれは感じます。知事としてやっても、「あっちの観光地とこっちの観光地とばらばらに発信しないで、もっと一緒にやってくれたらいいのにな。」と感ずることがあって、みんなが同じ方向を向くやり方って結構難しいなという感覚を持っていますけど、実は、こういう形でそれぞれが思っていることを出すと、「あ、何だ。あなたもそう思っていたの。」という共通項が見いだせるのではないかなと思いました。これは内山さんに感謝したいと思います。

ということで、自分なりに皆さんの発言を受け止めさせてもらいましたが、県として、今、申し上げたようにもう少し広い視点で統一的な発信をどうしていくかということをしっかりやっていきたいと思いますが、これは重層的にやらないといけないと思います。県だけの力ではなくて、それぞれ、「信越自然郷」は「信越自然郷」のエリアで、あるいは各市町村は各市町村のエリアで同じようなことをやっていかなければいけないと思いますので、是非そういう意味で同じ方向を向いて取り組んでいきたいと思っています。

いずれにしても、北陸新幹線（長野経由）の金沢延伸もまったなしの秒読段階でありますし、この地域、飯山新駅、どう生かすかということは皆さんの取組次第ということでもあります。県も全力で応援しますので、是非この新幹線延伸を一つの契機にして、この「信越自然郷」の地域が発展するように、力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

どうもありがとうございました。よろしくお願ひします。